

高齢者の眼の病気（２）

高齢者の視力を脅かす眼の病気には何故網膜疾患が多いのでしょうか。これは網膜疾患に治療がむずかしい病気が多いことがあげられます。

高齢者のかかる眼の病気としては白内障が有名です。老人性白内障ともよばれます。江戸時代には、まだ点眼薬によって治療していましたが、現代では白内障手術はもっとも安全な手術の１つになっています。（ただし、手術そのものは決して簡単ではなく、また頻度は非常に低いです。眼内炎、駆逐性出血といった重篤な合併症もあります）もちろん安心して手術を受けていただくのはいいのですが、体にメスが入ることは確かであり、本当に必要な時期に手術は受けたいものです。

さて、今回から治療の難しい網膜の病気を解説したいと思います。

まず、網膜は脳の一部であり、各細胞がそれぞれ網目のように連絡しあっています。したがって仮に細胞が１つ損傷すると、連絡をとっている別の細胞たちにも影響がきます。また網膜の細胞の多くは再生しません。したがっていったん細胞が死ぬと元通りに戻ることが極めて難しい組織といえます。

ではなぜ、年齢を重ねると治療の難しい網膜の病気にかかるのでしょうか。残念ながら真の原因は明らかになっていないものが多いです。それでも地道な研究者たちの努力で少しずつですが、病態（病気があらわれる仕組み）が垣間見えるようになっていきます。

わたしは網膜疾患の発生に影響を与える因子は下記のように大きく３つに分類できると考えています。

- １）遺伝子
- ２）加齢
- ３）生活習慣

遺伝子つまり、親からもらったからだの設計図。瞳の色、顔、骨の形などはこれで決まっています。代表的な遺伝性疾患に『網膜色素変性』という病気があります。暗いところでものが見づらいという症状（夜盲といいます）がでたらこの病気を考えましょう。最近都会では明るいところが多いためなかなか症状を自覚しない患者さんが多いです。映画館の中でなかなかまわりが見えるようにならないといって眼科を受診される方もいます。

またもし身内に血族結婚（近親婚）の既往のかたがいるようでしたら、『網膜色素変性』になる可能性が高くなります。治療の難しい病気ですが、早期に診断することにより生活習慣の改善である程度予防が可能な場合があります。